



図書館通信

最上校図書委員会 No.11 7月19日

今年の夏はいかが過ごしますか？

3年生は進学・就職に向け、充実した夏休みをじっくり、もう一度、自分のことを振り返り、将来について人生の一步を考えてみよう。

1・2年生は、勉強、部活、恋愛、旅行、バイト、etc.？

自分の道を切り開くための本を紹介します。ぜひ、読んでみてください。



「将来が見えてくる！日本の給料&職業図鑑」

AI時代で変わる!? 職業400の魅力とリアル!

「21世紀の職業図鑑」 稲泉連著

AI時代にはなくなる仕事以上に新しい仕事生まれ、それらが花形職業になる。

AIに負けない45の職業を紹介する。



「10年後に食える仕事 食えない仕事」 渡邊正裕著

AIやロボットに仕事が奪われる?と不安でいっぱいあなた。自分の将来が見渡せるようになります。ITを中心とするテクノロジーの進化で、日本人の仕事は大きく変化しています。AI時代に生き残る仕事、人間が能力を発揮できる仕事とは?リアル近未来の職業を図解も交え徹底解説!すべての人に必読の1冊です。

「なぜ僕らは働くのか」 池上彰監修

仕事、お金、働きがい、AIの台頭、人生100年時代。働くうえで考えるべき様々なテーマをマンガと図解で多角的に伝えます。温かく前向きになる一冊。

「人生の歩きかた図鑑」 石井光太著

”子どもの悩み”に向きあった、将来が不安な子どものための進路&職業図鑑!



夏休み中、いろいろなジャンルの本に挑戦!



『寝ても覚めてもアザラシ救助隊』 岡崎雅子著

アザラシの可愛さだけではなく、保護活動で見てきた一面や、他人事とは思えない地球環境問題のほか、自然界でたくましく生きているアザラシの魅力が書かれている。



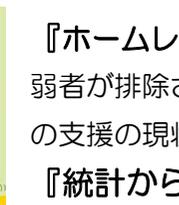
『17歳からの民主主義とメディアの授業 ぶっちゃけ、誰が国を動かしているのか教えてください』 西田亮介著

いつまでも政治に無関心でいいのか?そんなあなたが変わるきっかけになる入門書。

『宇宙開発カレンダー 2022-2030 's』

鈴木喜生著

人類の宇宙にける歴史と思いが感じられる一冊。

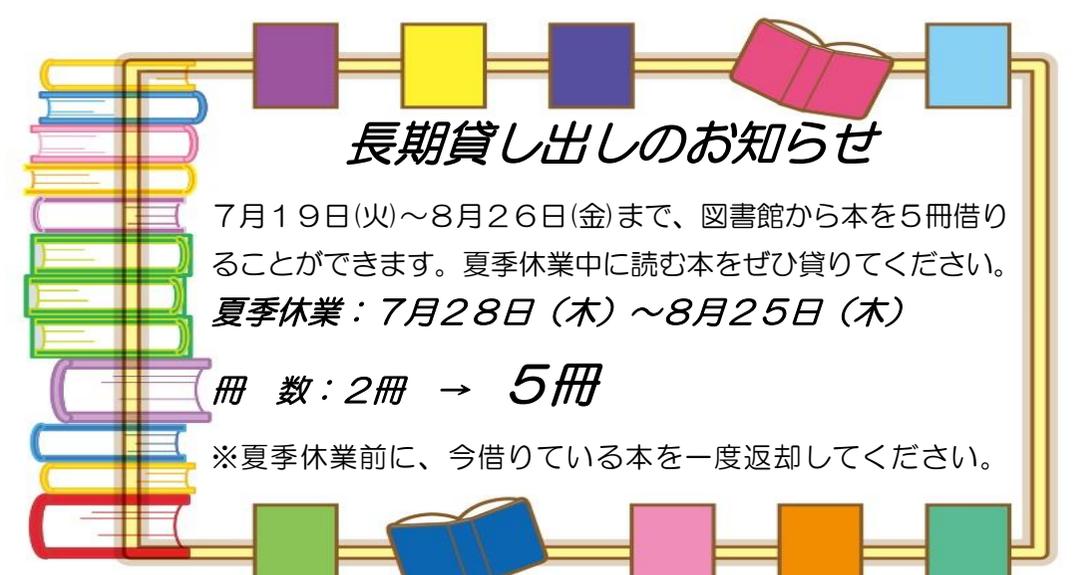


『ホームレス救急隊 フランス115番通報物語』 オド・マツソ著

弱者が排除されてしまう理由や福祉の本質について、日本の路上生活者の支援の現状についても考えさせられる一冊。

『統計から読み解く色分け日本地図』 重永瞬著

色を塗り分けた地図で、知られざる日本の姿が一目でわかる。



高校生に読んでほしい ロングセラー!

長く、長く愛されるには訳がある。ロングセラーTop20!
今だからこそ、読んでみよう。こんな時だから、読んでみよう。
夏休みにぜひ、読んでみよう。

第1位「こころ」 夏目漱石著

友情と恋の、どちらかを選ばなくてはならなかったら、どうしますか?

第2位「人間失格」 太宰治著

ひとがひととして、ひとと生きる意味を問う、問題作。

第3位「老人と海」 ヘミングウェイ著

著者にノーベル文学賞をもたらした永遠の傑作。

第4位「坊ちゃん」 夏目漱石著

松山中学在任当時の体験を背景とした初期の代表作。

第5位「異邦人」 カミュ著

理性や人間性の不合理を追求したカミュの代表作。

第6位「友情」 武者小路実篤著

友情と恋愛との相克をきめこまかく描いた代表作。

第7位「雪国」 川端康成著

ノーベル賞作家の美質が、完全な開花を見せた不朽の名作。

第8位「斜陽」 太宰治朝

“斜陽族”という言葉を生んだ太宰文学の代表作。



第9位「破戒」 島崎藤村著

差別問題に対処し、内面的相克を描いた近代日本文学の傑作である。

第10位「悲しみよこんにちは」 サガン著

20世紀仏文学界が生んだ少女小説の聖典。

第11位「金閣寺」 三島由紀夫著

三島文学を貫く最大の原理がここにある。

第12位「潮騒」 三島由紀夫著

恩寵的な世界を描いた三島文学の澄明な結晶。

第13位「変身」 カフカ著

世界文学史上最高の問題作。

第14位「塩狩峠」 三浦綾子著

生きることの意味を問う長編小説。

第15位「伊豆の踊子」 川端康成著

世紀の一目惚れを描く表題作。

第16位「車輪の下」 ヘッセ著

人生の苦難の渦に巻き込まれていく少年に思いをこめた自伝的小説。

第17位「点と線」 松本清張著

“社会派”の新風を吹きこみ、推理小説ブームを呼んだ秀作。

第18位「黒い雨」 井伏鱒二著

被爆という体験を、文学として定着させた記念碑的名作。

第19位「三四郎」 夏目漱石著

何度読んでも新鮮な気持ちになれる永遠の傑作。

第20位「赤毛のアン」 モンゴメリ著

人生の厳しさと温かい人情が織りこまれた永遠の名作。

